坂野正高（ばんのまさたか）教授　略歴および研究業績

略　　歴

本籍　　東京都目黒区青葉台２の522の39

1916(大正５)年６月26日　　絹織物を扱う堀越商会に勤務の父　坂野新次郎，母　秀の長男として，ニューヨークに生まれる

1922(大正11)年秋　　帰国

1923(大正12)年４月　　東京高等師範学校付属小学校入学

1933(昭和８)年３月　　東京高等師範学校付属中学校４年修了

1936(昭和11)年３月　　第一高等学校(旧制)文科丙類卒業

1942(昭和17)年９月　　東京帝国大学(旧制)法学部政治学科卒業

1942(昭和17)年９月　　東京帝国大学東洋文化研究所助手

1948(昭和23)年９月　　東京都へ出向〔都立高等学校(旧制)勤務〕

1949(昭和24)年２月　　都立高等学校助教授(旧制)

1955(昭和30)年１月　　東京都立大学教授（人文学部ついで法経学部，ついで法学部）

４月　　東京都立大学，大学院社会科学研究科授業兼担

1955(昭和30)年12月～1957年12月　　米・英・仏・独・伊・印・ビルマ・台湾（中華民国）へ出張（近代中国外交史研究のため）

1962(昭和42)年４月　　東京大学教授(法学部，アジア政治外交史講座担任)，東京大学大学院法学政治学研究科担当，東洋文化研究所研究担当

1963(昭和38)年　日本政治学会監事〔～1966(昭和41)年〕
1966(昭和41)年　日本政治学会理事〔～1968(昭和43)年〕
1966(昭和41)年1月　財団法人東洋文庫研究員（非常勤，無給）
1967(昭和42)年　国際法学会理事〔～1979(昭和54)年10月〕
1970(昭和45)年　国際法学会常務理事(運営委員)〔～1976（昭和51)年〕
1971(昭和46)年1月　オーストラリアへ出張（第28回国際東洋学者会議）
1972(昭和47)年5月～6月　アメリカへ出張（日米知的交流計画）
1973(昭和48)年7月　フランスへ出張（第29回国際東洋学者会議）
1974(昭和49)年　アジア政経学会理事
3月　昭和48年度「吉田賞」受賞（財団法人吉田茂記念事業財団，『近代中国政治外交史』,『現代外交の分析』に対して贈られたもの）
1975(昭和50)年　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員会委員
1976(昭和51)年3月　東京大学停年退官
4月　国際基督教大学教養学部教授
1981(昭和56)年11月　紫綬褒賞
1982(昭和57)年4月　国際基督教大学大学院行政学研究科教授
1985(昭和60)年　7月10日，死去

研究業績一覧

〈凡例〉

本目録は，坂野正高先生の東京大学東洋文化研究所助手時代から1985年7月死去にいたるまでの主たる研究論文，随筆，単行本，訳本などをまとめたものである。目録内容は，(1)研究論文・随筆を年代順に配列したもの，(2)単行本(編集を含む)，(3)訳本，(4)辞典・事典などの執筆項目，(5)書評論文，(6)研究発表・講演・放送の6つに分かれる。

(1)では，それぞれの年ごとに，論文・随筆を発表順に並べ，単行本所収のものを末尾にまとめた。先生の随筆は，研究またはそれに関連するものも少なくないので，研究論文とあわせて並べてある。したがって，専門領域とは必ずしも近くはない内容の随筆もここに含まれ，(1)は，(2)から(5)までの項目と比べ，かなり長大となっている。

1．文献表記の方法は，以下のとおりである。

(1) 文献情報の順序は，論文では，各年ごとに論文名，所収雑誌名，巻・号，発表年月；単行本は，編著者名(必要な場合)，題名，出版社，出版年とした。書評論文についても，表記は論文・単行本にならった。

(2) 論文・単行本の副題は，原論文の形式にかかわらず，英文・邦文ともにダッシュで両側をくくる。

例えば，「馬建忠の鉄道論——1879年の二つの意見書——」，『東洋文化研究所紀要』，63号，3月

(3) 次の2に該当する略称以外で，有用と思われる情報は，亀甲(〔〕)でくくった。その論文や本に関する書評，座談会出席者のリストなどがここに含まれる。

2．発表後，単行本に編まれた研究論文や随筆には，それぞれ単行本の略称を付け加えた。略記されたそれぞれの本のフルタイトル，出版社名，出版年は次のとおりである。

『馬建忠』——坂野正高，『中国の近代化と馬建忠』，東京大学出版会，1985。

『外交史研究』——坂野正高，『近代中国外交史研究』，岩波書店，1970。

『イメジ』——坂野正高，『イメジの万華鏡—— 私の米国・日本・中国体験——』，筑摩書房，1982。

3．中国の書名・人名のアルファベット表記は，先生の著作による方式をそのまま採用した。例えば，『南行記』は "Nanhsing-ji"，「馬建忠」は "Ma Chien-chung" としている。

目録作成に際し，原載資料の外，下記のものを参照した。

国際基督教大学大学院事務資料(非公開)。

国際基督教大学アジア文化研究所，「研究所員活動報告」，『アジア文化研究』，12号(1981)，13号(1981)，14号(1984)。

国際基督教大学，『研究要覧』，1981。

坂野正高，『中国近代化と馬建忠』，東京大学出版会，1985。

坂野正高，『イメジの万華鏡』，筑摩書房，1982。

坂野正高，文献カード（手書き）。

4．原則として，漢字は，原資料による表記にできるだけ従った。但し，簡体字は現行の漢字表記に修正した。詳細は原資料を参照されたい。

(1)研究論文・随筆

1941(昭和16)年　「佐々木先生のこと」,『先輩佐々木保議氏追悼号』, 一高弥生会

1942(昭和17)年　「結核の話」,『緑会雑誌』, 14号

「散る紅葉」,『欅』, 12月

1943(昭和18)年　「原を偲びて」,『一高弥生会会報』, 13号

「凧」,『欅』, 5月

1944(昭和19)年　「鶏」,『欅』, 1月

1947(昭和22)年　「阿片戦争後における最恵国待遇の問題」,『東洋文化研究』, 6号, 10月〔1950年,『東洋文化研究』は『東洋文化』と改称〕

1949(昭和24)年　「外交交渉における清末官人の行動様式――1854年の条約改正交渉を中心とする一考察――」,『国際法外交雑誌』, 48：4, 10月および48：6, 12月(『外交史研究』に収録)

1950(昭和25)年　「東京都立大学人文学会案内」,『人文学報』, 東京都立大学人文学会, 1〔創刊号〕, 7月

1951(昭和26)年　「外交史研究者の歯ぎしり」,『歴史学月報』, 5号, 2月

「第一次世界大戦から5・30まで――国権回復運動覚書――」, 植田捷雄(編),『現代中国を繞る世界の外交』, 野村書店〔『国際法外交雑誌』, 51：3に, 尾上正男による書評〕

1952(昭和27)年　「仁井田さんの頑張り」,『東京都立大学中国研究会報』, 1〔創刊号〕

「総理衙門設立の背景」,『国際法外交雑誌』, 51：4 (1952年8月), 51：5(1952年10月), 52：3(1953年6月)

1954(昭和29)年　「1848年青浦事件の一考察――清末官人の条約解釈の一例として――」,『人文学報』, (東京都立大学人文学会), 11号, 2月(『外交史研究』に収録)

「知らぬもたのし」,『巣箱』, 1：2, 11月

「中国」(衛藤藩吉と共同執筆), 日本政治学会編,『戦後世界政治と米国』, 岩波書店

「ロバート・ハート」, 東洋経済新報社,『世界史講座』, 第5巻「帝国主義」所収 (『外交史研究』に収録)

1955(昭和30)年　「私の好きな讃美歌」,『おんかん』, 2号, 5月

1957(昭和32)年　「天津条約(1858年)調印後における清国外政機構の動揺――欽差大臣の上海移駐から米国公使ウォードの入京まで――」,『国際法外交雑誌』, 55：6, 3月, 56：1, 4月

1958(昭和33)年　「総理衙門の成立過程」, 東洋文庫近代中国研究委員会編,『近代中国研究』, 第1巻, 1月

「欧州における中国研究の印象」,『アジア研究』, 5：1, 8月

1959(昭和34)年　「法学科の歴史」,『都立大学法学ゼミ連合会誌』, 1〔創刊号〕, 3月

「北京における対露交渉機構の変貌——天津条約（1858年）調印から1860年５月まで——」，東洋文庫近代中国研究委員会編，『近代中国研究』，第３巻，８月

1960(昭和35)年　「米国人の目に映った『五・一九』以後」，東京都立大学職員組合，『安保闘争の記録——都立大学・一九六〇年の夏——』，10月

「外政機構・外交文書・外交史研究——アロー号事件を中心として——」，『東洋文庫年報』，昭和三十四年度，10月

1961(昭和36)年　「中央研究院近代史研究所の外交檔案——特に『四国新檔』と『弁理撫局檔案』について——」，『東洋学報』，43：４，９月（『外交史研究』に収録）

"Japanese Studies of Diplomatic History of Modern China — A Reappraisal by the Involved —," *Bulletin of the Japan Branch of the Visiting Scholars Association, Harvard-Yenching Institute,* vol.1.

「座談会　中国の近代化」，『世界の歴史　11』，「ゆらぐ中華帝国」所収，筑摩書房　〔座談会出席者：市古宙三，小山正明，佐々木正哉，田中正俊，野村浩一，坂野正高，山辺健太郎〕

1962(昭和37)年　「日本人の中国観　——織田 万博士の『清国行政法』をめぐって——」，『思想』，452号(1962年２月)，456号(1962年６月)

「共同討議——日本における政治学研究の現況——」，『年報政治学——政治学の現代的課題——』，５月　〔共同討議者：潮田江次(司会)，堀 豊彦，円藤進一，渡辺 一，横越英一，内山正熊，脇 圭平，清水慶三，坂野正高，神川信彦〕

「二十五人の『すしづめ学級』」，『杉——PTA広報』，１，５月

「人間を差別する心」，『道』〔明星学園PTA会報〕，56，７月

「女王様の手袋」，『道』，60，10月

"Development of China Studies in Postwar Japan — Foreword —," *Developing Economies,*〔アジア経済研究所〕Preliminary Issue, No.2, September-December.

1963(昭和38)年　「黄仲畬(張彤雲)とアロー戦争——清英交渉機構の一側面——」，英修道博士還暦記念論文集編集委員会編，『英修道博士還暦記念外交及び国際政治の諸問題』（『外交史研究』に収録）

「黄恵廉とアロー戦争——英語の話せた一青年の役割——」，『東京都立大学法学雑誌』，３：１・２合併号，３月　（『外交史研究』に収録）

1964(昭和39)年　「座談会　中国の試練」，『中央公論』，79：７，７月〔座談会出席者：関野 雄，野村浩一，横田 巍，坂野正高，武田泰淳〕

1966(昭和41)年　「歴史からのアナロジー」，『朝日ジャーナル』，８：43，10月16

日号，特集　変容する中国の底流　2，文化大革命をこう理解する

池島信平編，『歴史よもやま話・東洋篇』，10月〔池島信平，野原四郎氏との鼎談，「北清事変」について〕

1967(昭和42)年　「同治年間(1862—1874)の条約論議」，『東洋文化』，42号，3月（『外交史研究』に収録）

1968(昭和43)年　「中国を英国の外交官はどのように見ていたか——マカートニー使節団の派遣から辛亥革命まで——」坂野正高・衛藤瀋吉共編，『中国をめぐる国際政治』，東京大学出版会（『外交史研究』に収録）〔『国際法外交雑誌』，67：5，2月，『アジア研究』，15：4，1月，に書評〕

1969(昭和44)年　「大世界史よもやま話」，『眠れる獅子——大世界史　20』，衛藤瀋吉著，文芸春秋社，付録「西学東漸記——容閎自伝」解説，『西学東漸記』，百瀬 弘訳，坂野正高解説，平凡社，東洋文庫133

1970(昭和45)年　「現代の学者における学問と政治——メリー・ライト教授小伝——」，『東洋学報』，53：1，6月（『イメジ』に収録）

「『水滸伝』と『資治通鑑』」，『アジ調月報』，2：10，10月号（『イメジ』に収録）

「学会展望 1969年」の「アジア」の項目，『年報政治学 1970』，岩波書店〔無署名〕

1971(昭和46)年　「第28回国際東洋学者会議に出席して」，『アジ調月報』，3：4，4月号（「カンベラにて」と改題，『イメジ』に収録）

「第28回 国際東洋学者会議(1)——東洋史部門，ことに中国史関係の報告について——」，『史学雑誌』，80：6，6月

「フランス留学時代の馬建忠——外交及び外交官制度に関する二つの意見書(1878年)を中心として——」，『国家学会雑誌』，84：5・6合併号，8月（『イメジ』に収録）

1972(昭和47)年　「近代中国の政治と社会」，週刊『東洋経済』，2月19日号

「アメリカ東部の一ヵ月」，『アジ調月報』，4：9，9月号（『イメジ』に収録）

「イメジの万華鏡——私の経験した米国・日本・中国の五十年——」，『中央公論』，8月号（『イメジ』に収録）

「イェール大学の論文指導」，『UP』，1号〔創刊号〕，11月（『イメジ』に収録）

「図書館専門職」，『UP』，2号，12月（『イメジ』に収録）

"A Kaleidoscope of Images — United States, Japan, and China as Personally Experienced —," *Bulletein of the International House of Japan,* 30. October.〔*Newsletter,* Aug. 1, 1972 に短

縮された文章掲載〕

「馬建忠の海軍論——1882年の意見書を中心として——」，川野重任(編)，『アジアの近代化』，東京大学出版会 （『馬建忠』に収録）

"Ma Chien-chung (1844-1900) a frustrated French-trained early reformist—his views on diplomatic service and naval training—," *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko,* the Oriental Library, No.30.

1973(昭和48)年 「『ニューヨーク・タイムズ』を読む」，『UP』，3号，1月 （『イメジ』に収録）

「ある史料との再会」，『アジ調月報』，5：2，2月号 （『イメジ』に収録）

「外交の非公式チャネル——『松本重治回想録』によせて——」，『歴史と人物』，27号，5月 （『イメジ』に収録）

「康有為の『公車上奏』」，『アジ調月報』，5：12，12月号 （『イメジ』に収録）

1974(昭和49)年 「サン・シュルピス寺院にて——学問と政治の間——」，『UP』，15号，1月 （『イメジ』に収録）

「馬建忠の鉄道論——1879年の二つの意見書——」，『東洋文化研究所紀要』，63号，3月 （『馬建忠』に収録）

「駐清英公使ブルースのみた生麦事件のリチャードソン——プライヴェート・レターのおもしろさ——」，『学士会会報』，723号，4月 （『イメジ』に収録）

「織田 萬」，潮見俊隆・利谷信義編，特集『日本の法学者』，法学セミナー増刊号，日本評論社，6月号 （『イメジ』に収録）

1975(昭和50)年 「『男子の本懐』としての政治学——南原先生の思い出——」，『緑会雑誌』，復刊第9号，1月 （『イメジ』に収録）

「植田捷雄先生をしのぶ」，私家版『植田先生』，8月16日 （『イメジ』に収録）

「姉崎先生の一喝——『縁なき集生』の思い出——」，『陸』，陸俳句会，3：9，9月 （『イメジ』に収録）

「『清僧格林沁奏疏器解』について」，故村松教授追悼事業会編，『故村松教授追悼論文集——中国の政治と経済——』，東洋経済新報社

「中国と日本——バートランド・ラッセルの『中国の問題』(1922年)をめぐって——」，『東京大学公開講座 アジアの中の日本』，東京大学出版会 （『イメジ』に収録）

1976(昭和51)年 「バケツの中の獲物——飯塚浩二著『満蒙紀行』に寄せて——」，『アジア時報』，74号，6月 （『イメジ』に収録）

「飯塚浩二『満蒙紀行』解説」,『飯塚浩二著作集』(10)(「飯塚浩二氏と『満蒙紀行』」と題して,『イメジ』に収録)
「ドゥミエヴィル先生を訪ねる——パリのシノローグ達との一ヶ月——」,『UP』, 49号, 11月

1977(昭和52)年 「めざす資料にたどりつくまで——パリーで見た馬建忠の成績表——」,『学内広報』, 東京大学広報委員会, 361号, 3月22日 (『イメジ』に収録)
「歴史研究と現状認識——訪中偶感——」,『世界』, 6月号 (「訪中雑感」と改題,『イメジ』に収録)
「副団長の経験」, 福武 直編,『現代の中国』, 東京大学出版会 (「訪中記録」と改題,『イメジ』に収録)
「毛主席逝去後の政局——張香山・孫平化両氏による国内情勢の説明を中心として——」, 福武 直編,『現代の中国』, 東京大学出版会

1978(昭和53)年 「吉野作造の中国観」,『中央公論』, 3月号 (『イメジ』に収録)
「馬建忠とパリ」,『思想』, 654号, 12月 (『イメジ』に収録)

1979(昭和54)年 "Ma Chien-chung's mission to India in 1881—his travel account, Nanhsing-ji (南行記)—,"『社会科学ジャーナル』, 国際基督教大学, 17号, 3月, pp.107-122.

1980(昭和55)年 「馬建忠のインド紀行『南行記』——1881年, アヘン貿易漸減案打診の旅——」,『東洋史研究』, 38: 4, 3月 (『馬建忠』に収録)
「書誌をつくる——J. K. フェアバンク教授との共同作業——」,『書誌索引展望』, 4: 1, 2月 (『イメジ』に収録)
「マカオの一日」,『アジア時報』, 通巻119号, 3月 (『イメジ』に収録)
「東洋文化研究所蔵書疎開の記」,『図書の窓』, 東京大学付属図書館月報, 19:8, 8月および19:9, 9月 (『イメジ』に収録)

1981(昭和56)年 「馬建忠『擬設繙訳書院議(一八九四年)』——解題と訳文——」,『アジア文化研究』, 国際基督教大学, 13号, 11月 (『馬建忠』に収録)

1982(昭和57)年 「武漢における学術討論会に出席して——二つのあいさつ——」,『東亜』, 177号, 3月 (『イメジ』に収録)
「張蔭桓著『三洲日記』(一八九六年刊)を読む——清末一外交家の西洋社会観——」,『国家学会雑誌』, 95: 7・8, 7月

1983(昭和58)年 「ちょっと気になる表現」,『アジア時報』, 157号, 5月
「清季一個外交家的西洋社会観——張蔭桓撰《三洲日記》札記——」, 中華書局編,『紀念辛亥革命七十周年学術討論会論文集』, 下〔全3冊〕

(2)単行本・著書・編著

『中国外交文書辞典(清末編)』,(植田捷雄,魚返善雄,坂野正高,衛藤瀋吉,曽村保信共編) 学術文献出版会,1954,139頁;1985年,国書刊行会より再発行

Japanese Studies of Modern China—A Bibliographical Guide to Historical and Social-Science Research on the 19th and 20th Centuries—, Charles E. Tuttle Company, 1955, xvii+331pp. (with John King Fairbank) [Reprinted by Harvard University Press, 1971, with Sumiko Yamamoto as a third co-author]

China and the West 1858-1861—The Origins of the Tsungli Yamen—, Harvard University Press, 1964, x+367+xiv pp.

『中国をめぐる国際政治——影像と現実——』,(衛藤瀋吉と共編),東京大学出版会,1968,347頁。

『近代中国外交史研究』,岩波書店,1970,x+453頁

『現代外交の分析——情報・政策決定・外交交渉——』,東京大学出版会,1971,x+431頁

『近代中国政治外交史——ヴァスコ・ダ・ガマから五四運動まで——』,東京大学出版会,1974,xvii+625頁

『近代中国研究入門』,(田中正俊,衛藤瀋吉との共編),東京大学出版会,1974,x+442頁

『イメジの万華鏡——私の米国・日本・中国体験——』,筑摩書房,1982,364頁

『中国近代化と馬建忠』,東京大学出版会,1985,204頁

(3)訳書

ジョージ・マカートニー [George Macartney],『中国訪問使節日記』,平凡社,1975,東洋文庫277,xiii+350+viii頁

フランソワ・ド・カリエール[François de Callières],『外交談判法』,岩波書店,岩波文庫34-019-1(白19-1),1978,228頁

(4)辞典・事典などの執筆項目

『平凡社 世界歴史事典』:「会審衙門」,「海関」,(「関税」の項目の中),「琦善」,「欽差大臣」,「葉名琛」,「総理各国事務衙門」,「芝罘条約」,「天津条約」,「ネルチンスク条約」,「ハート,ロバート」,「北京条約」,「望厦条約」

『平凡社 政治学事典』:「梅津・何應欽協定」,「科挙」,「官宦」,「士大夫」,「双十節」,「対華二十一ヶ条」,「中華思想」,「五族協和」,「中国に関する九ヵ国条約」,「読書人」,「土豪劣紳」,「西原借款」,「変法自疆」,「マンダリン」,「滅満興漢」

『平凡社 大百科事典』:「粤海関」,「エリオット」,「海関金単位」,「会審衙門」,「マンダリン」

『平凡社 世界名著事典』:「近世支那外交史(矢野仁一)」,「支那における租界の研究(植田捷雄)」,「中国の商業と行政(B. H. Morse)」,「中華帝国と国際関係史(B. H. Morse)」

『平凡社　アジア歴史事典』：「愛琿条約」，「アロー戦争」，「イグナーチェフ」，「ウェード」，「エルギン」，「欽差大臣」，「グロ」，「粛順」，「清代外交史料」，「総理衙門」，「籌辦夷務始末」，「張公襄理軍務紀略」，「天津条約」，「ハート」，「ブルース」，「ブルー・ブック」，「ブルブロン」，「文祥」，「北京条約」，「フェアバンク」

『国際法辞典』，鹿島出版会：「アロー号事件」，「織田　萬」，「義和団事件」

『日本外交史辞典』，外務省外交資料館・日本外交史辞典編纂委員会編：「外務省」，「中国の開国」，「マッケイ条約」

Revue Bibliographique de Sinologie: 1 (1955)—7 (1961), 12 (1966)—13 (1967)〔掲載項目不詳〕

(5)書評論文

「内藤虎次郎『清朝史通論』(昭和十九年)」，『國家学会雑誌』，60：1，1946年1月

「大熊　真『幕末期東亜外交史』」，『東洋文化研究』，2号，1946年9月

「〔立作太郎博士論行委員会編〕『立作太郎博士論文集』」，『東洋文化研究』，3号，1947年3月

「松田智雄『英米資本と東洋』」，『歴史研究』，147号，1950年9月

「鈴木中正『清朝中期史研究』」，『アジア研究』，1号，1954年4月

「J. K. フェアバンク『中国沿岸における貿易と外交』」，『アジア研究』，1：2，1954年10月

「Stanley F. Wright, *Hart and the Chinese Custom*」，『国際法外交雑誌』，53：4，1954年11月

「A. グローゼ＝アショフ『一八四四年から一八四六年の間における耆英とラグルネの交渉』」，『アジア研究』，1：4，1955年3月

"Ralph L. Powell, *The Rise of Chinese Military Power 1895-1912*, (Princeton University Press, 1955)," *Pacific Affairs*, 30:1, March, 1957

「フォックス著『英国の提督と中国の海賊(一八三二—一八九六年)』」，『東洋学報』，43：1，1961年6月

「近藤俊清『台湾の命運』」，『朝日ジャーナル』，3：51，1961年12月17日

「三田村泰助『官宦——側近政治の構造——』」，『朝日ジャーナル』，5：11，1963年3月17日

「野村浩一『近代中国の政治と思想』」，『東京大学新聞』，1690号，1964年10月12日

「衞藤瀋吉『近代中国政治史研究』」，『アジア研究』，16：3，1969年10月

「ローレンス・オリファント [Laurence Oliphant]『エルギン伯　中国・日本使節記』——Elgin's Mission to China and Japan——」，『学燈』，67：6，1970年6月

「市古宙三『近代中国の政治と社会』」，『週刊東洋経済』，3648号，1972年2月19日

(6)研究発表・講演・放送

「清国総理衙門の創設について」，1951年5月5日，国際法学会，一橋大学，座長：英　修道教授

"Origins of the Tsungli Yamen," Annual Convention of the AAS (Boston), 1957年4月, Chairman: Prof. Biggerstaff

「戦後欧州における中国研究の新動向」, 1958年4月11日, アジア政経学会

「馬建忠(1844－1900)――李鴻章幕下の外交家・行政家・改革思想家――1878年の常駐外交使節論を中心として」, 1970年10月18日, 国際法学会, 慶応大学

「馬建忠(1844－1900)の外交官制度論」, 1970年11月8日, 史学会, 座長：山本達郎教授

"Ma Chien-chung (1844-1900) in Paris: Two Treatises (in 1878) on Diplomacy and Diplomatic Serving," 28 International Congress of Orientalists, ANU, Canberra, 1971年1月

"Ma Chien-chung's Views on Modern Railways: Two Treatises of 1879 written in France," 29 International Congress of Orientalists, Paris, 1973年7月

"Etudes japonaises relatives à l'histoire diplomatique de la Chine moderne—une réévaluation—," Séminaire de la révolution chinoise, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Paris, 1976年3月18日

"Ma Chien-chung (1844-1900), un réformateur frustré—ses vues sur le service diplomatique et l'instruction navale—," Centre de recherche et de documentation sur la Chine contemporaine, Paris, 1976年4月12日（同年4月6日, 同題で, I.N.L.C.O. の Bergère 教授ゼミにて講演）

「フランス雑感――中国研究の近情――」, 東京大学東洋文化研究所, 東アジア政治法律班研究会, 1976年7月15日

「中国を訪ねて」, 国際基督教大学アジア文化研究所研究会, 1977年2月15日

「訪中偶感――歴史研究と現状認識――」, 東京大学法学部, 政治学研究会, 1977年2月19日

「中国二週間の旅――最近の政情についての見聞を中心として――」, 東京大学東洋文化研究所, 東アジア政治法律班研究会, 1977年3月8日

「中国をまわって――友好の旅の二週間――」, 財団法人東洋文庫談話会, 1977年4月16日

「植田捷雄博士と植田文庫」, 亜細亜大学図書館, 1977年6月2日

「大学図書館の社会的機能について」, 私立大学図書館協会東地区研究部会第4期研修分科会, 1977年12月15日

「カリエール著『外交談判法』をめぐって――」, 国際基督教大学社会科学研究所研究会, 1978年3月10日

「馬建忠の外交論と海軍論」, 学習院大学東洋文化研究所, 東アジア近代における文化摩擦研究班研究会, 1978年5月17日

「研究こぼれ話――北京から見た生麦事件――」, 国際基督教大学軽井沢研修会, 1978年7月7日

「馬建忠のインド紀行『南行記』――1881年, アヘン貿易漸減案打診の旅――」, 東京大学法学部, 政治史研究会, 1978年10月28日

「我研究中国近代外交史的経験——一個日本研究者的自我估価——」，香港中文大学中国文化研究所，学術研討会，1978年11月2日

"Ma Chien-chung's mission to India in 1881, his travel account, *Nanhsing-chi* 南行記," Seminar of the Institute of Chinese Studies, Chinese University of Hong Kong, 1978年11月9日

「失意の改革思想家馬建忠——その外交論と海軍論を中心として——」，北海道大学法学部，政治研究会，1979年7月11日

「書誌を使う，集める，作る——一研究者の経験——」，私立大学図書館協会東地区研究部会書誌作成分科会，1979年11月1日

「張蔭桓の駐米公使時代(1886－1889年)の日記，『三洲日記』を読む」，東京大学法学部政治学研究会，1981年4月25日

「清李一個外交家的西洋社会観——張蔭桓撰《三洲日記》札記——」，辛亥革命七十周年記念学術討論会，武漢，1981年10月

「五年ぶりの中国——辛亥革命七十周年記念学術討論会(武漢)に参加して——」，国際基督教大学アジア文化研究所講演，1982年1月19日